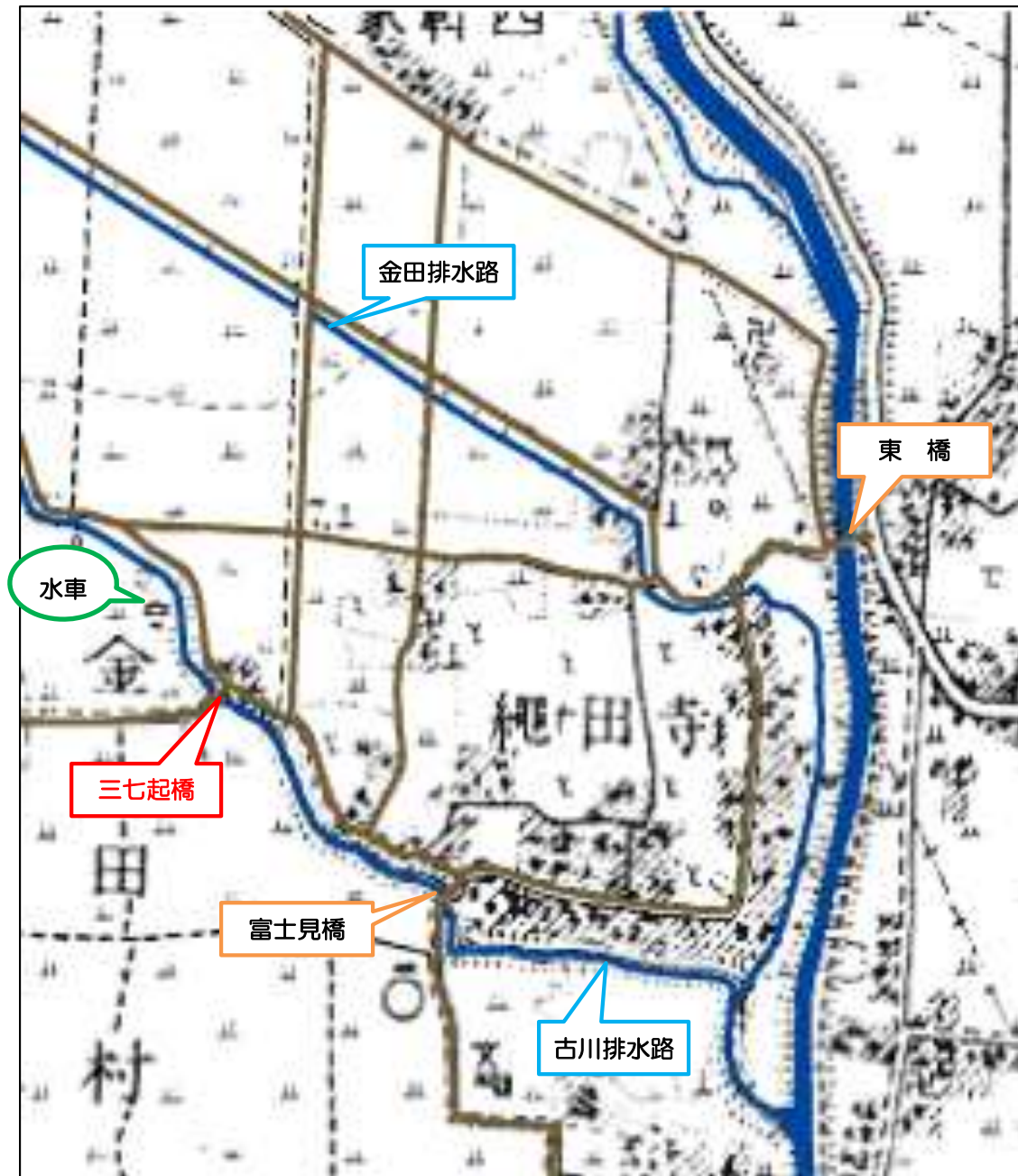


寺田縄地域の河川と橋（3）

西<sup>にし</sup>棲<sup>ま</sup>橋、三<sup>み</sup>七<sup>なな</sup>起<sup>き</sup>橋、昭<sup>しょう</sup>栄<sup>えい</sup>橋

大正13年（1924）

（大正13年国土地理院発行地形図・改）



■ 地図上に、西棲橋、昭栄橋 は見当たりません。



■ 西棲橋、三七起橋、昭栄橋

共に古川排水路に架橋されています。設置は鈴川の河川改修と排水路の改修に合せ、改修、架橋されました。

大正10年の地図には三七起橋のみが記されています。

## ■ 西棲橋

古川排水路を渡り西の方角、水田の中を通り飯島方面に続きます。



現在は金田小学校児童たちの通学路となり、登下校時には元気な声が跳ね返ります。



には元気な声が跳ね返ります。

名前は、付近の字名の「西棲」（にしずみ）にちなんで付けられています。

## ■ 昭栄橋

古川排水路に架かり、北へは伊勢原方面、南へは金田小学校を通り、秦野街道（神奈川県道26号）を結んでいます。このルートは現在、平塚市幹道26号入野岡崎線ですが、前身は「農免道路」（のうめんどうろ）として敷設されました。

橋の命名は、地域が栄え、発展してほしいと祈念を表しています。（地元の人・談）昭和44年の竣工です。

（注）農免道路：正式には「農林漁業用揮発油税財源身替農道」と云います。通称として農免道路と呼ばれています。かつて、農林漁業用に使うガソリンは、事業を営む「必要経費」として「免税」にして欲しいとの要望に基づき、免税は難しいためその分を道路整備事業に充てられ、完成した道路。一般道路とはことなり農林水産省の管轄です。



橋の名盤はありませんが、竣工年月が記されています。



家の右手を通り、秦野街道に続きます。古川排水に沿う道は「三七起橋」の脇を通り、「富士見橋」に抜ける道路です。

昭栄橋にも青色の水道用のパイプが通っています。

#### ■ 三七起橋（みなきばし）

大正10年の地図では、寺田縄の「逆L字型」の道路を古川排水路に沿い、寺田縄の西側へ、飯島方面に続く道、古川排水路を渡る道路の平塚市幹道3号寺田縄飯島線に架かっています。この道路は寺田縄地域を貫き直線で金目川に到達します。

完成年度は昭和39年3月30日です。東海道新幹線が昭和39年10月1日開業ですから約半年前に完成しています。この道路の東、突き当りが新幹線の高架になります。



三七起橋の名盤です。



西側から見た三七起橋です。東の突き当りが東海道新幹線の高架。西、飯島方面の道には歩道が設置され、地元民、中でも平塚市立金旭中学校の生徒たちの通学路として、安全が確保されています。



東側から見た三七起橋です。道路は平塚市幹道13号寺田縄飯島線。西に飯島方面。その先には、金目川沿いに走る県道平塚飯島線に当たります。

金目川を渡ると金旭中学校に至ります。



古川排水路。  
北を向いています。遠くに大山、その手前に左右に白色の塀のように見えるのが三七起橋です。

古川排水路に沿う道路を北に進み、幹道寺田縄飯島線を越え、しばらく行くと昭栄橋に出ます。

■ 三七起橋 (みなきばし) の命

名について

寺田縄地域の字名です



(井出栄二「平塚の地誌」昭和60年 一部改)

図中の「連照寺 → 蓮昭寺」です。

私の土地登記簿の表示は「平塚市寺田縄字連勝」と記されています。蓮昭寺の北と西に位置するのが「字連勝」です。

「字名」は災害、寺社、集落、農耕などに関する名称が付けられていることが多いようです。例えば「崩レ」は、金目川の増水によりしばしば堤防が決壊したからといわれています。

「会下後」は寺社関係。「中條、東栖、西棲」は集落関係。「中筋、錢田、どぶ町」は、農耕関係を表しています。

寺田縄地域には「大山」、「東郷」、「明治」、「連勝」、「三七起」という字名があります。「三七起」は「みなき」と読み、年代の「37年」で「明治37年」を意味しています。

この字名、明治37年（1904）、年表には2月10日ロシアに宣戦布告 日露戦争始まる。翌年の9月5日講和条約が締結され戦争は終結されました。年代にある「37年」は日露戦争の時代です。

また、この年は『寺田縄の耕地整理は早く、明治37年に第1回目が行われた。通常、旧整理といわれる耕地整理で、オオハイスイ（古川排水路）の北側が実施された』（平塚市民俗調査報告書4）とあります。

今挙げている字名の由来は、耕地整理が実施され日露戦争が始まった年ですし、耕地整理後の新しい字名として、日露戦争に因んだ名称が付けられました。「大山」は満州軍総司令官名大山巖元帥、「東郷」は日本海海戦でバルチック艦隊を全滅させた東郷平八郎元帥、この年の和暦名が「明治」そして、その戦績が連戦連勝で「連勝」と付けられました。

## ■ その他の<sup>あざめい</sup>字名 （「平塚市地名地誌事典 小川治良 H12, 11」を基に編集）

**仲條**（なかじょう）：集落関係地名

「仲」は村の中央を意味し、「條」は条里制の遺名ではないかとの説があります。

ここは寺田縄村の中央部に位置し、昔から「お屋敷跡」と伝えられ、館域は東西、南北が100間（約180m）（中世平塚の城と館）とされています。

**出口**（でぐち）：位置関係地名

寺田縄集落から鈴川の対岸に出る所という意味とされます。

**東栖**（ひがしづみ）：位置関係地名

仲條を中心とした寺田縄集落の東側の居住地という意味とされます。

**西棲**（にしづみ）：位置関係地名

東栖と反対の、仲條の西側の居住地という意味とされる。

**西橋場**（にしはしば）：分類不明地名（位置関係？）

寺田縄集落の東側に鈴川を渡る東橋があり、金目川の旧河道と云われる「古川」を渡り本郷道を西へ飯島集落に行く、寺田縄集落の西側の橋がある場所という意味とされます。今は「三七起橋」が西の橋とされます。

**どぶ町**（どぶまち）：農耕関係地名（耕地関係）

町（マチ）は市町村の町の意味と「ひと囲いの田地」という意味があります。深く盛り込む田、通称「どぶ田」の意味かと思われ。

**本郷**（ほんごう）：分類不能地名

地名の由来は不明ですが、コメの収穫量が多い田で一反辺り八俵と云われていました。

**柏面**（かしわめん）：農耕関係地名（耕地関係）

昔目印に「柏の木」が植えられ、この地は「どぶ田」で金目川の氾濫により「租税の免除地」であったとも云われ、免が面に転化した地名と考えられます。

**中筋**（なかすじ）：農耕関係地名（耕地関係）

中は中央の意味で、寺田縄と飯島との間の耕地を「十町耕地」と云い、そのほぼ中央に位置しているとの意味と思われます。

**柳町**（やなぎまち）：植生関係

水田の畦道に「柳」が植えてあったので呼ばれていると思われます。

**銭田**（ぜにた）：農耕関係地名（耕地関係）

地名の由来は不明ですが一説に、貨幣の銭のような形をしていた水田と云われています。

**横町**（よこまち）：農耕関係地名（耕地関係）

「マチ」は田の中の一区画の意味で、何かの横に位置する水田の意味と思われます。

**沖田**（おきた）：農耕関係地名（耕地と位置関係）

寺田縄の居住地から見た沖の方（遠い）の水田の意味と思われます。

**会下後**（えしうしろ）（えのしろ）：

禅宗の僧侶が修業する寺院であった吉祥院の後という意味です。吉祥院は今の場所より北に位置していました。

## ■ 寺田縄の字名考

一般的に「字」の名称は、集落住民の生業の中心である農耕に因むものが多く、農地の場所・地形・地質等を表しています。また、住民の居住する場所・地形等や自然災害が発生した場所・状態等に付けられていることもあります。

それは、住民の日常生活から自然発生的に生まれたもので、字名から仲間内にその場所が分かり合える所を示しています。「字」の名称は、住民の生活に根ざすものと云えます。その意味で「字」の名称は地域住民の歴史的所産です。そのような中で、寺田縄地域の字名のように、特定の時代を反映して付けられた名称は特異なものとうことができます。

明治44年（1911）に『金田村誌』が出されています。記された字名は26ありました。寺田縄地域の字名は「明治37年」に因んで付けたとされていますが、『金田村誌』には日露戦争に関連する字名は記されていません。



寺田縄地域で耕地整理が完了したのは大正3年（1914）（経済厚生調査書 昭和11年）です。明治44年の段階には耕地整理は完成していないことになり、明治37年の日露戦争に関連する字名の命名は大正時代以降とも考えることもできます。

「日露戦争に関連する字名」の命名年代の検証は今後の課題と思われます。

(注)『金田村誌』（明治44年）に記され、現在使われていない字名は 曲田、彼岸田、穴島田、主計田、扇田、野添、北大縄前、沖埋、前埋、宮脇、楢木、蓮昭寺前の12ヶ所です。これらが、後に、「大山」、「東郷」、「明治」、「三七起」、「連勝」という「日露戦争に関連する字名」に変更されたのでしょうか。